

掲載内容

新製品情報

Meta Imaging Series Software Version 7.5.3 がリリースされました。

AutoQuant X (AutoDeblur, AutoVisualize) Version 2.1 がリリースされました。

ジャーナル紹介

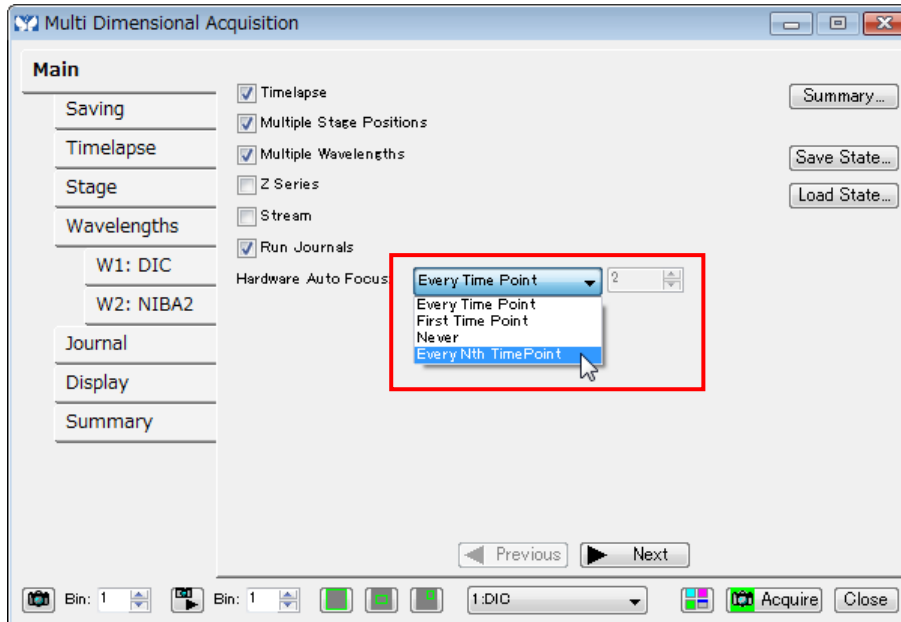
興味領域 (Region) をサンプル (細胞など) に設定する方法で、閾値 (Threshold) だけでは設定が難しい場合に Join Drawing / Cut Drawing を使用する Journal を作成しましたので紹介致します。

1) 新製品情報

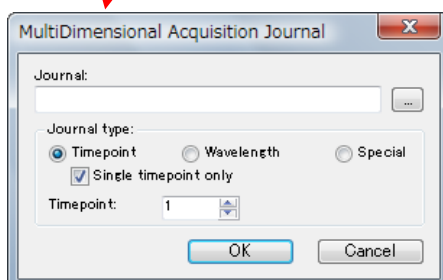
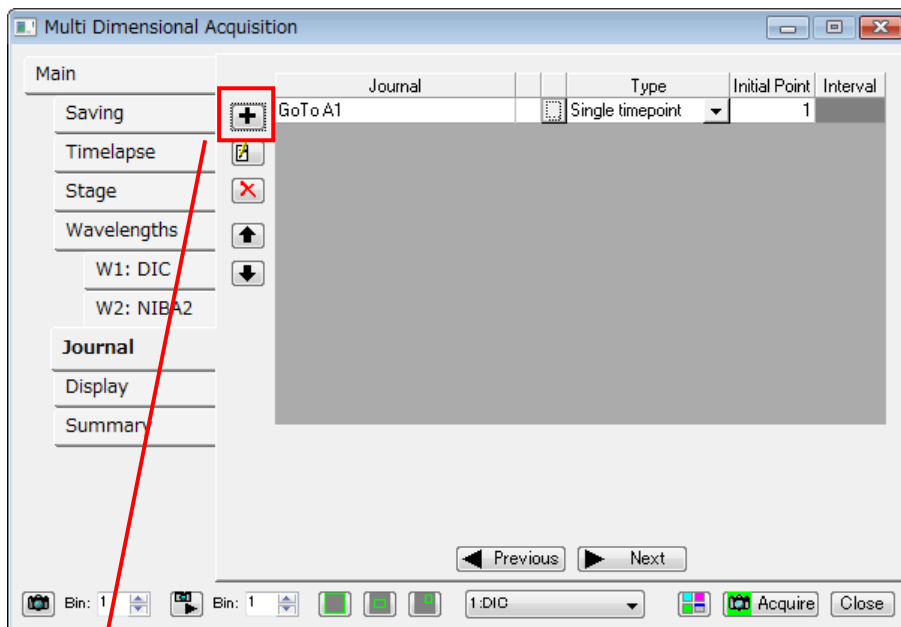
Meta Imaging Series software Version7.5.3 がリリースされました。主な追加機能は下記になります。

*多次元データ取得機能

・ZDC の設定部分 (Main Tab) に「Every Nth Time Point」が追加されました。



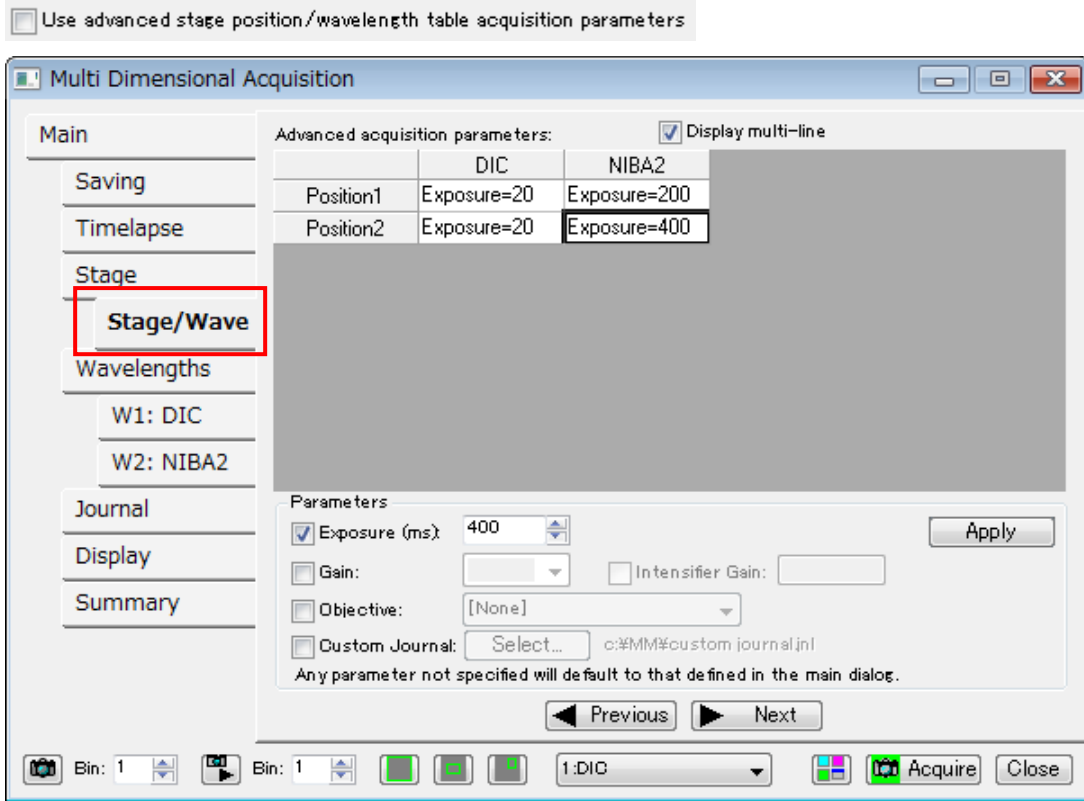
・Journal Tab の設定が変更されました。



Journal 設定が複数、設定できるようになりました。

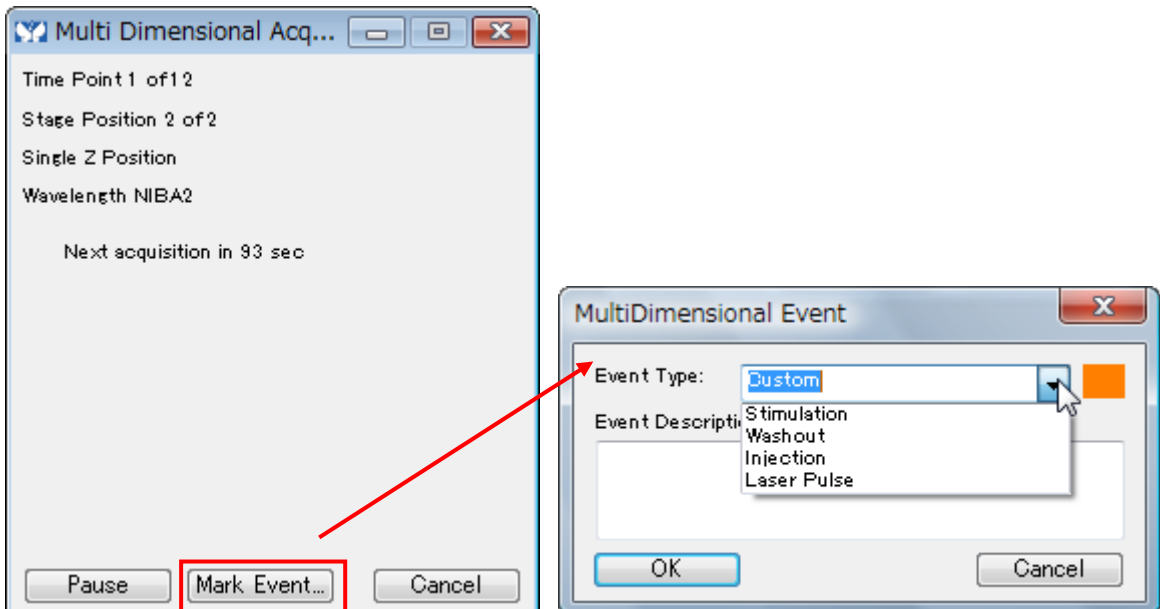
・多点において任意のステージポジションで個別に露光時間、Journal 等を設定できるようになりました。

下記のようなチェック項目が、Stage Tab にあります。チェックを入れますと、下記ようになります。



上記では、NIBA2 の露光時間を Position によって変更している例です。

・Event mark を設定できるようになりました。

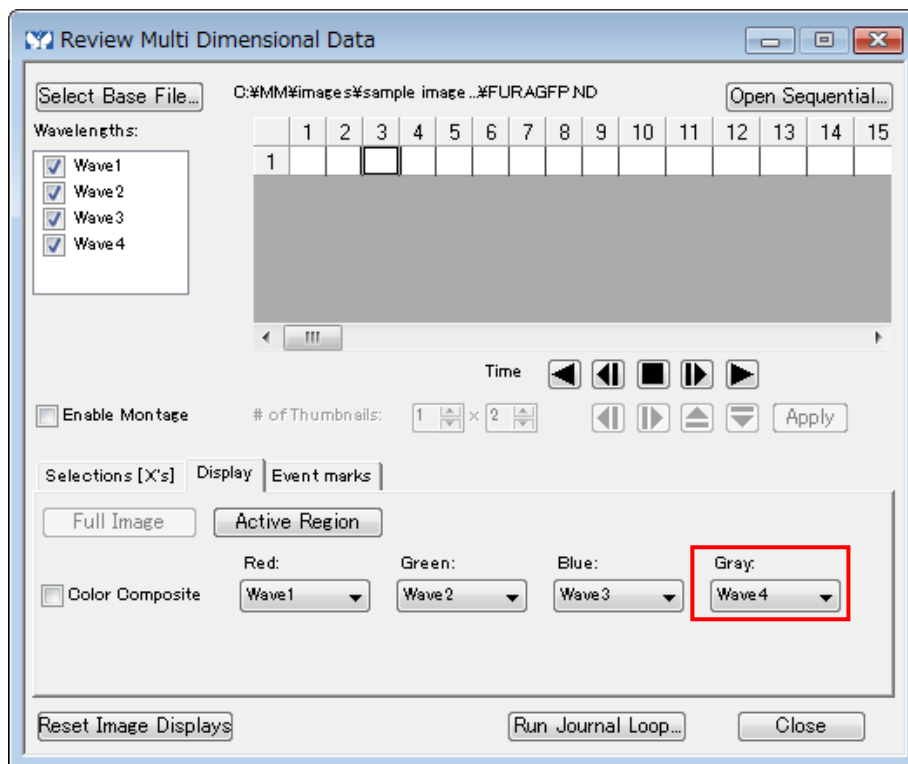


Timelapse をスタートさせますと、「Mark Event」のコマンドボタンがクリックできるようになり、「MultiDimensional Event」が設定できるようになります。

Review multidimensional Data でも、この Event Mark が確認できますので、何か実験中の作業として記録させることができます。次の Version では Event mark ヘジャンプする機能も追加される予定です。

*多次元データ表示機能

- RGB の重ね合わせ表示機能の部分に、Gray を追加しました。

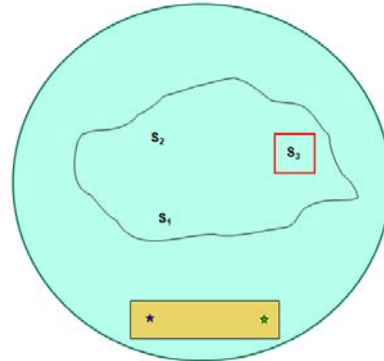
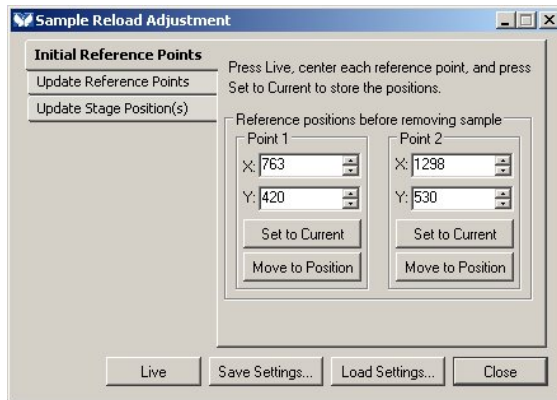


なお、Red、Green、Blue も含め Gray は色の変更ができません。色の指定が必要な場合は、今まで同様 Overlay Fluorescence が必要になります。

*Sample Reload Adjustment 機能

・サンプル位置を、XY 位置の補正を 2 つの目印から記録させることができるようになりました。

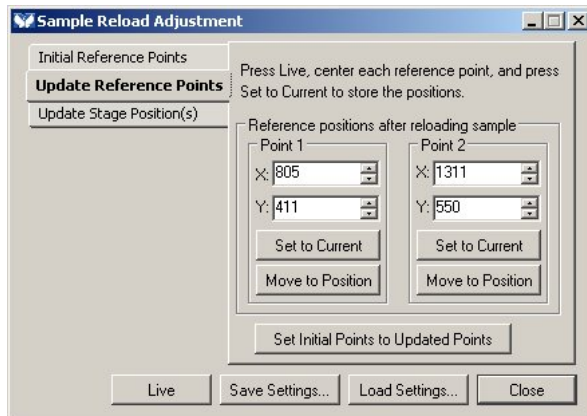
顕微鏡観察を行い、一旦、XY ステージよりはずしてしまいますと再度、同じサンプルを観察するのは今まで非常に困難でした。この機能を用いることにより、一旦、固定を外したものを再度、XY 軸方向のみですが、調整を行うことができるようになりました。手順は下記になります。



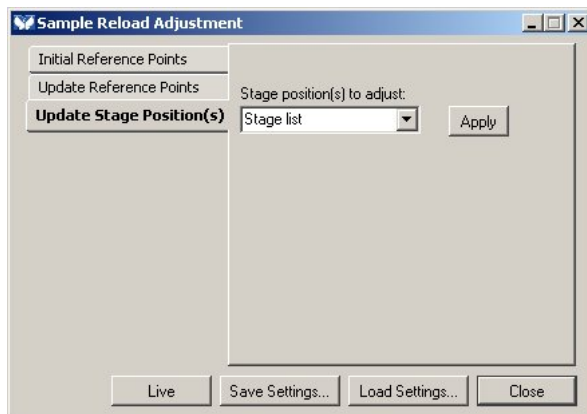
2 つの目印 (Point1 と Point2) を Initial Reference Points タブで登録し、サンプルを撮影します。

撮影が終わりましたら、顕微鏡システムからサンプルを外し、培養装置に戻します。

新たな撮影を行うために顕微鏡システムに戻した際、XY の位置が前回使用した位置と完全に同じになることはまれですので、Update Reference Points タブの 2 つの目印 (Point1 と Point2) のを再確認し、それぞれの Set to Current ボタンを押して位置を再登録します。



続けて、Update Stage Position(s) タブで位置補正を反映させたい設定リストを Stage Position(s) to adjust リストより選び、Apply ボタンを押します。この操作により、MDA 等で設定されているステージ位置情報を変更することなく、位置補正が施されます。



※注意事項

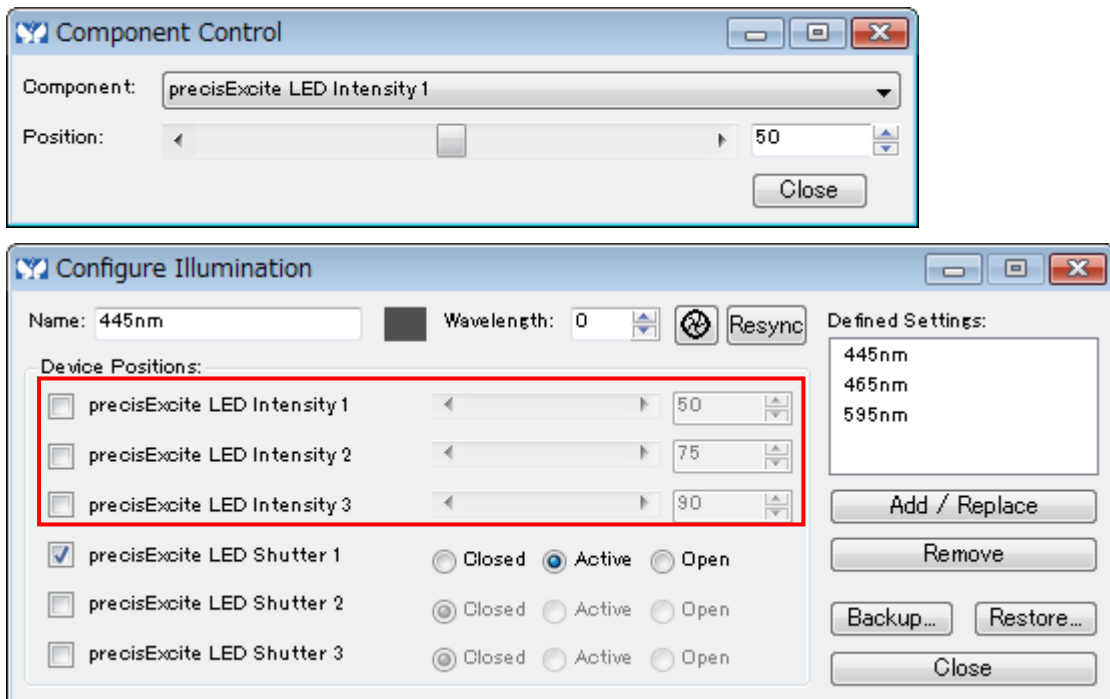
回転に関してはサポートをしておりませんので、画像が若干の回転をした場合には Display menu / Rotate での回転操作が必要になります。

*DCAM カメラドライバ (ImagEMを使用する場合)

- ・外部トリガー(External Trigger)で、Trigger Edge(Negative / Positive)の設定をサポートしました。
- ・Stream (HDD への保存)の取り込み中に、保存する機能をサポートしました。

*precisExcite LED 光源の制御

- ・USB 接続をすることで、今後出荷する LED ユニットから Intensity を 0%–100%(1%刻み)で制御可能になりました。



*Chamlide 培養装置の設定

- ・設定温度範囲は、広くなりました。

AutoQunat X version 2.1 がリリースされました。

AutoQunat X (AutoDeblur、AutoVisualize) が Version 2.1 になりました。Version 2.0 からの主な追加機能は、下記になります。

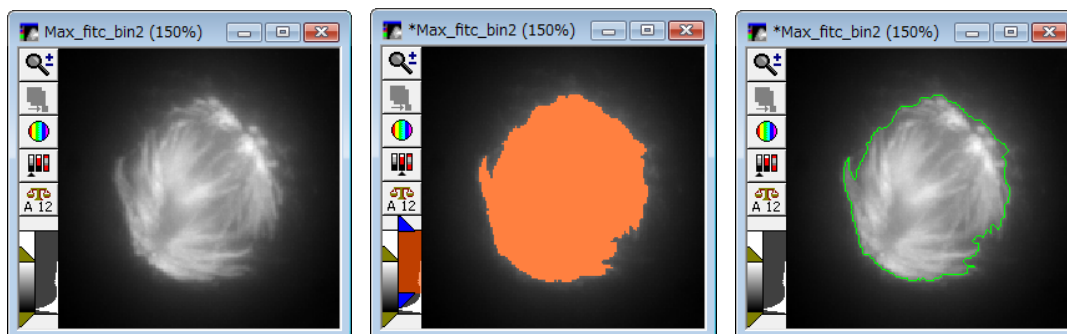
- Windows Vista Business and Ultimate (32bit and 64bit) にサポートしました。
- MetaMorph の ND ファイルをサポートしました。
- オリンパス社の OIB, OIF ファイルをサポートしました。
- マルチプロセッサのサポートを強化しました(より早い処理を実現しました)。

ただ、リリースされたばかりでバグらしい現象も確認しておりますので、改善点はメーカーに要求していく方向です。

2) ジャーナル紹介

興味領域設定(Region 設定)をサンプル(細胞等)の周辺に設定する方法で、一例として Journal(マクロ)を使用したものを紹介致します。

<従来の方法>

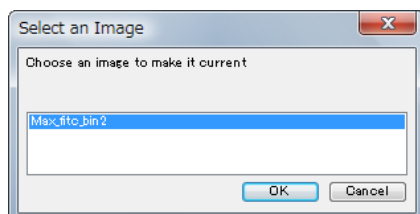


従来であれば、上記のように画像に Threshold(閾値)を設定し、Region menu / Create Around Objects を使用して Region を設定し、Threshold を Off にすれば、緑で囲まれた興味領域が設定できます。

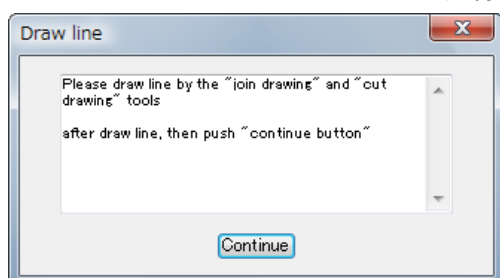
しかし、この方法では、Threshold が上手く設定できるという条件での操作手順になり、Threshold が上手く設定できない場合は使用できませんでした。

<Draw Region のマニュアル設定 Journal について>

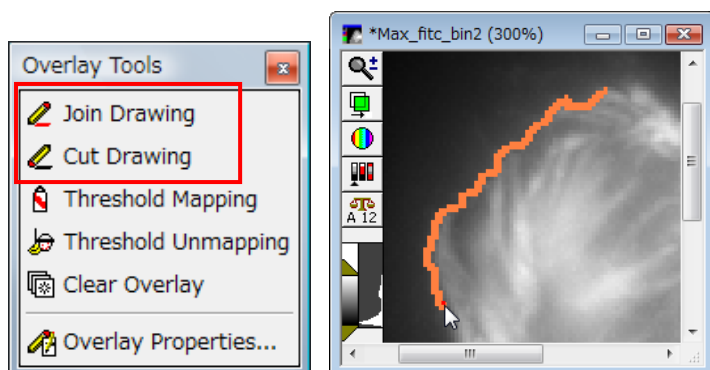
Journal を使用することで設定したい箇所に Join Drawing と Cut Drawing で細かな修正が可能になりました。




画像を選択します。

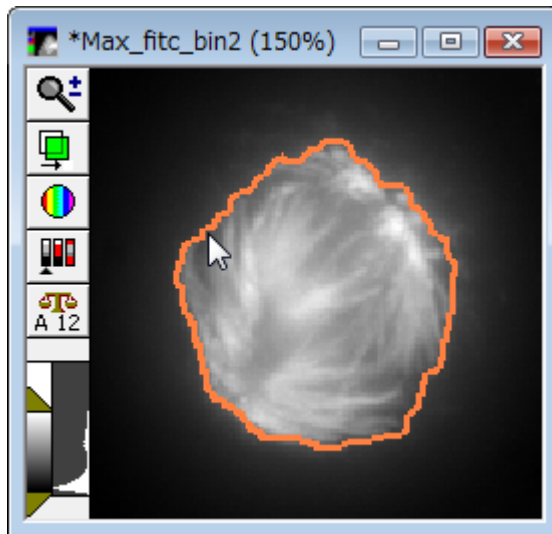
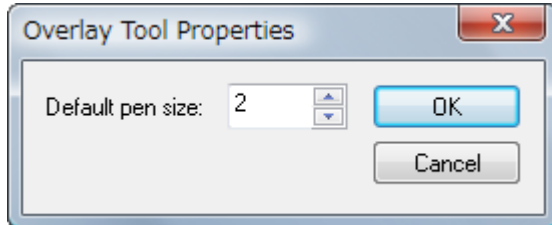


このウィンドウの表示している間に Draw します。

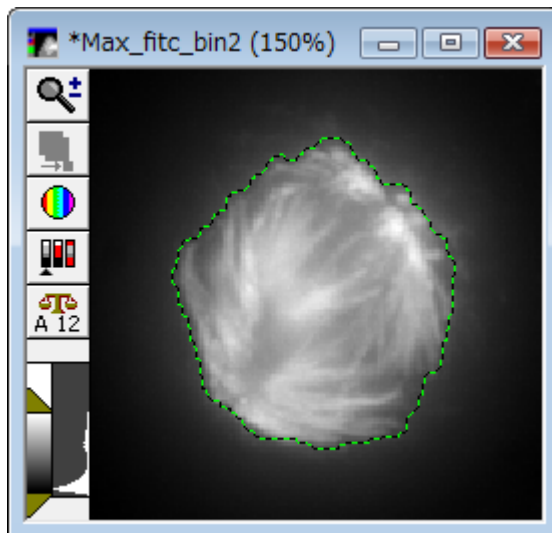


このように書き込みます。もし、削除したい場合は、「Cut Drawing」を使用します。正しく「Join Drawing」しているかどうかは、「」をクリックするとオリジナルとの比較も可能です。複数のサンプルの場合でも、同様の設定で可能です。

また、上記「Overlay Tools」の Overlay Properties の部分をクリックしますと、Join Drawing と Cut Drawing のペンサイズが設定できます。



ここまで設定したら、「Continue」をクリックします。



Region が設定されます。

以上